

看 護

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

学習指導要領においては、教科・科目等における理解をより深めることを目的とし、教科の内容項目に応じた課題に沿って、探究的な活動が取り入れられるべきと示されている。

看護科における探究的な学習は、専門科目における学習の中で、看護に関する課題について、疾患、治療、生活状況などを把握するとともに、当事者の思いを傾聴するなど、多面的な情報を集めて分析し、解決策の考察や協議を経て当事者への支援を行い、その結果を踏まえた振り返りを行うことを繰り返しながら実施される。また、地域や保健医療福祉機関、産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなど社会とのつながりを意識した工夫に努めることが大切である。

このようなことから、看護の理論と実践を結び付け、看護実践力を育成するためには探究的な学習の推進に努める必要がある。

(2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

看護科の専門科目においては、看護の本質に根ざして「看護の見方・考え方」を働かせ、情報収集・分析、問題の明確化、援助方法の立案、実施、結果の評価について科学的根拠をもとに探究する学習活動を通して、全体を振り返り「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすることが重要である。

【看護の見方・考え方】

健康に関する事象を当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること

<看護科における探究活動>



特に、「看護臨地実習」においては、臨地（病院等）での実習を行うことから、学校で基礎的・基本的な知識・技術を確実に身に付けた上で生徒が実習に臨む必要がある。そのため、学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して改善に生かす「指導に生かす評価」に重点を置くことが重要である。

「指導に生かす評価」の実施に当たっては、授業内における声かけのほか、ICT端末を活用した小テストの実施や、レポートへのコメント記入、ルーブリックなどの活用が有効である。

なお、「記録に残す評価」は、年間を通じて3観点をバランスよく評価する必要があることに留意すること。

2 指導と評価の計画例

(1) 科目「基礎看護」の計画例

ここでは、単元「休息と睡眠」の指導と評価の計画例を表し、指導上の留意点や評価における具体的な考え方を示している。

本単元においては、休息や睡眠が健康や成長・発達に大きな関わりをもつことを踏まえ、人々の状態に応じて、健康の回復及び日常生活の自立を目指す援助を行うための基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにすることをねらいとしている。

ア 単元の目標

(ア)	休息と睡眠の援助について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(イ)	休息と睡眠の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだす。
(ウ)	休息と睡眠の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
休息と睡眠の援助について <u>理解している</u> とともに、 <u>関連する技術を身に付けている</u> 。	休息と睡眠の援助について <u>基本的な課題を発見し</u> 、 <u>倫理観を踏まえて解決策を見いだしている</u> 。	休息と睡眠の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている</u> 。

ウ 単元の指導と評価の計画（4時間）

※「○」指導に生かす評価、「◎」記録に残す評価

時間	【小単元】・ねらい	知	思	態
1 【1時間】	【援助の基礎知識】 休息の意義、睡眠の生理とリズム、健康を保つための睡眠と活動のバランス、睡眠に影響を及ぼす心身の状態や環境因子について理解する。	○		
2～3 【2時間】	【援助の実際】 睡眠の習慣を妨げる因子について表出し、休息と睡眠の援助について、解決策を見いだす。 睡眠の習慣を妨げる因子について、自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組む。		○	◎
4 【1時間】	【援助のまとめ】 不眠が健康に及ぼす影響について理解し、休息と睡眠を促す技術を身に付ける。 不眠が健康に及ぼす影響について理解し、休息と睡眠の援助について、解決策を見いだす。	◎	◎	

学習支援ソフトを活用し、生徒の記述を見取る。

エ 学習指導案（2～3時間目／4時間中）

学習内容		生徒の学習活動	指導上の留意事項	【観点】 ■評価方法
導 入	自己の睡眠 を振り返る		前時に〔例1〕ワークシートを生徒に 配信し、内容を確認して本時に臨むよ う指示している。	
		【問い】自分の睡眠のよい点・悪い点について考えたことが ありますか。		
		【一斉学習】 ・自分の睡眠の質につ いて考え、ワークシ ートに睡眠の現状とよ い点・悪い点を入力 する。		
展 開 1	睡眠の質に 関連する要 因の把握	【問い】自分の睡眠の質をどのようにとらえていますか。そ の根拠を調べてみよう。	【ペア学習】 ・お互いの睡眠の問題点 を整理し、問題点の 根拠を考え、ワーク シートに入力する。	【思考・判断・ 表現】 ■ワークシート 〔例1〕
		【問い】自分の睡眠のよい点を継続させる方策や、問題点の 改善の方法について考えよう。	・各自の睡眠の問題点を、睡眠 を阻害する根拠となる要因に 結び付け、知識の深化が図ら れるよう指導する。 ・ペア学習の際、コミュニケー ションを図りながら、相手の 睡眠の質についてアセスメン トする能力を身に付けさせる。	
展 開 2	睡眠の援助 の方法につ いて考察	【問い】自分の睡眠のよい点を継続させる方策や、問題点の 改善の方法について考えよう。	【ペア学習】 ・問題点を解決するた めに、生活習慣などの 改善に着眼し、援助 方法を見だし、ワ ークシートに入力す る。	【思考・判断・ 表現】 ■ワークシート 〔例1〕
		【問い】自分の睡眠のよい点を継続させる方策や、問題点の 改善の方法について考えよう。	・教科書だけでなく、他の資料 やICTを活用するなど、多方面 から根拠を調べるよう指導す る。 ・個別の生活を考慮した上で、 睡眠の改善点を具体的に考え させる。	
ま と め	まとめ	【問い】他の人は、それぞれの課題に対して、どのような援 助方法を考えたのだろうか。	【一斉学習】 ・援助方法についてクラ ス全体でシェアリン グする。	
		【問い】他の人は、それぞれの課題に対して、どのような援 助方法を考えたのだろうか。	・援助方法の工夫点を学び合い、 気付いたことを交流するよう 指導する。	

[例1] 個人学習用ワークシート（学習支援ソフトで作成。生徒は端末から入力）

ワークシート 自分の睡眠について考えよう

年 組 番 氏名 _____

1. 私の睡眠の現状について

- ・休みの日は起きられない。
- ・スマホを触る時間が多い。
- ・いつも熟睡感がない。

2. 私の睡眠のよい点・悪い点

<よい点>

(1) だいたい8時間寝ている。
(2) 途中で起きない。

<悪い点>

(1) Youtubeや動画を深夜まで見ている。
(2) ゲームに没頭する。
(3) 電気を付けたまま寝る。
(4) 寝る間際におやつを食べる。
(5) 湯船に浸からずにシャワーで済ます。

3. よい点・悪い点の根拠を調べよう

<よい点の根拠>

(1) 10代の最適な睡眠時間は8～10時間。
(2) 中途覚醒しないことは、よい睡眠である。

<悪い点の根拠>

(1)～(3) 高照度光や青色光によりメラトニン分泌が抑制されてしまう。
(4) 胃腸が休まらない。
(5) 深部体温の下降期に寝床につくようになると良いが、シャワーだけだと体温の低下幅が大きくなり入眠しやすくない。

4. 改善策やよい点を継続するための工夫点

- ・寝る前には、スマホやテレビを見ないようにする。
- ・寝る前には食べない。お腹が空いたら、胃に優しいものを食べる。
- ・ゆっくり湯船に浸かる。早めに入浴を済ます
- ・昼間に過度な運動をする。

5. 振り返り

「4. 改善策やよい点を継続するための工夫点」も3と同様に「指導に生かす評価」を行うが、本事例では省略する。

本事例では、「3. よい点・悪い点の根拠を調べよう」に記載された内容について「指導に生かす評価」を行う。

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫（評価時期、評価方法、評価結果のフィードバック）

ここでは、[例1] ワークシートの「3 よい点・悪い点の根拠を調べよう」の評価例について示す。

(ア) 作成したルーブリックの例

授業前に、生徒が使用するワークシートとともに、評価規準となるルーブリックを作成する。以下に、評価例を示す。

ルーブリックは、学習支援ソフトの機能を活用して、作成することで生徒の端末に送信することができる。

ポイント (必須) 3	ポイント (必須) 2	ポイント (必須) 1
レベルのタイトル A 十分満足できる	レベルのタイトル B おおむね満足できる	レベルのタイトル C 努力を要する
説明 睡眠と関連する要因について教科書以外のことも根拠として考えることができている。概念、理論を学術的、社会的背景の側面を活用している。	説明 睡眠と関連する要因の根拠について教科書により活用している。概念、理論を活用している。	説明 睡眠と自分の生活を振り返ることはできているが、教科書による根拠を調べていない。

ルーブリックの例

(イ) 学習支援ソフトを活用した評価の画面構成例

生徒が記入するワークシート

先生が記入

The screenshot shows a software interface with two main sections. On the left, a worksheet titled 'ワークシート 自分の睡眠について考えよう' (Worksheet: Think about your own sleep) is displayed. It contains four numbered sections for students to write about their sleep habits, including current status, good/bad points, and improvement strategies. On the right, a teacher's evaluation panel is visible. It features a 'ルーブリック' (Rubric) section with three levels: 'A 十分満足できる' (3 points), 'B 概ね満足できる' (2 points), and 'C 努力を要する' (1 point). A red box highlights the rubric and a '限定公開のコメント' (Limited public comment) section. A callout bubble on the right explains that the rubric is pre-made and selected by the student, and that comments can be sent to the student personally with limited public visibility.

生徒はこのワークシートに入力します。

あらかじめ作成したルーブリックが示され、選択した生徒の評価は網掛けで表示される。

各生徒へ評価に対するコメントを送信できる。生徒本人への限定公開。

(ウ) 十分満足できる (A) の評価例

This screenshot shows the same software interface as above, but with a student's completed worksheet and a teacher's 'A' grade evaluation. The worksheet section '3. よい点・悪い点の根拠を調べよう' (3. Investigate the basis for good/bad points) is filled with handwritten text. The 'good points' section states that appropriate sleep hours vary by age, with 8-10 hours being good for 10th graders, and that regular sleep patterns lead to higher quality. The 'bad points' section notes that excitement and low melatonin levels affect sleep, and that a busy lifestyle can lead to insomnia. The teacher's evaluation panel shows 'A 十分満足できる' (3 points) and a handwritten comment from the teacher dated July 26th at 16:53, praising the student's use of textbooks and other resources to improve their sleep habits.

睡眠のよい点・悪い点の根拠について、教科書だけでなく、他の資料やICT端末を活用し、調べて記載しているため、(A)とした。

(エ) おおむね満足できる (B) の評価例

休息と睡眠ワークシート2

提出済み

200% 標準デキ... Arial 10

3. よい点・悪い点の根拠を調べよう
<よい点の根拠>

(1)10代の最適な睡眠時間は8～10時間。
(2)中途覚醒しないことは、よい睡眠である。

<悪い点の根拠>

(1)～(3) 高照度光や青色光によりメラトニン分泌が抑制されてしまう。
(4) 胃腸が休まらない。
(5) 深部体温の下降期に寝床につくようにすると良いが、シャワーだけだと体温の低下幅が大きくなり入眠しやすくない。

B 概ね満足で... 2ポイント

睡眠と関連する要因の根拠について教科書により活用している。概念、理論を活用している。

C 努力を要す... 1ポイント

睡眠と自分の生活を振り返ることはできているが、教科書による根拠を調べていない

クリア

限定公開のコメント

*** 7月19日 15:43

脳の刺激は光としていますが、他にも考えられますか？

「高照度光や青色光によりメラトニン分泌が抑制されてしまう」など、教科書をもとに根拠を調べ、記載できているため、(B)とした。

(オ) 努力を要する (C) の評価例

提出済み

200% 標準デキ... Arial 10

3. よい点・悪い点の根拠を調べよう
<よい点の根拠>

(1)睡眠時間は6時間以上がよい。
(2)起きない方がよいから。

<悪い点の根拠>

(1)～(3)興奮して眠れない
(4)お腹が苦しくて眠れない
(5)暑過ぎて、体温が丁度よくない

C 努力を要す... 1ポイント

睡眠と自分の生活を振り返ることはできているが、教科書による根拠を調べていない

クリア

限定公開のコメント

*** 7月26日 11:30

どのようなことが脳への刺激となってしまうのか教科書を確認してみましょう。

限定公開コメントを追...

投稿

記載されているが、その根拠が明確でないため、(C)とした。

【フィードバック】
(評価Cの生徒に対する手立て)
教科書を参考に、具体的な刺激の内容について考えさせるようコメントにフィードバックを行うとともに、次時に直接声かけを行うなど、支援する。